

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画（開催後報告書） 概要版 Prosperity（サプライチェーン、バリューチェーン）（案）

2026年2月6日 第14回持続可能な調達ワーキンググループ

公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会
持続可能性局



「もの」だけでなく、「生活」を豊かにし、可能性を広げることにつながる社会や環境に関する知見をレガシーとして、次世代に継承する。

【目指すべき方向】

①持続可能な調達コードを遵守したサプライチェーンを構築し、加えて資源の循環的な利用及び処分までの過程を含むバリューチェーン全体を通じた持続可能性に配慮する。

【主な実施事項】（抜粋）

◆ 調達コードの策定・普及

物品やサービスの調達プロセスにおける持続可能性への配慮を実現するため、基準や運用方法等を定めた「持続可能性に配慮した調達コード」（以下、「調達コード」という。）を策定した。法令遵守を始め、環境問題や人権・労働問題の防止等への貢献を考慮に入れた共通基準に加えて、木材、紙、農産物、畜産物、水産物、パーム油の6分野について、より詳細な要件や担保措置を定めた物品別の個別基準を定めた。

◆ 調達コードの運用

調達コードについては、サプライヤー、ライセンシー及びパビリオン運営主体等を対象に説明会等を通じて周知した。遵守状況については、チェックシートの提出やヒアリング等により確認し、必要に応じて助言や追加の確認を行った。これらの取組により、概ね調達コードは遵守されていたことを確認した。好事例や指摘内容は事業者の取組事例集として公表したほか、特に優れた取組を行った参加者については表彰を行った。

◆ 持続可能性に配慮した木材、紙、農・畜・水産物及びパーム油の調達

個別基準については、基準への適合度を確認する補完的なツールとして認証等を位置づけるとともに、調達先候補情報の提供や個別協議を通じて認証等の調達比率の向上を促した。認証品等の調達が難しい場合も、理由の合理性や調達基準への適合度が高いことを個別に確認した。

◆ 通報受付窓口

調達コードの不遵守に関してあらゆるステークホルダーが通報を行うことができる仕組みを構築し、適切に対応するための体制（グリーンバンス・メカニズム）として調達コードに係る通報受付窓口を設置した。寄せられた通報60件のうち、必要な情報が提供された14件を受け付け、そのうち5件について処理開始を決定し具体的な対応を行った。

持続可能性に配慮した調達コード

【取組状況】

2022年3月～ 調達WGを設置し、持続可能性に配慮した調達のあり方について検討するため全14回開催

2022年6月 調達コード策定、公表

その後2023年7月、2024年5月に改訂。解説資料を作成し、説明会等で周知。チェックシート約3,000件確認。

2024年～ 遵守に関する取組状況を確認するため、200件を超える事業者へのヒアリングを実施

2024年7月～ 通報受付窓口を設置

9か国語の説明資料を作成、1,000以上の関係者に周知

2025年5月～9月 SUSパトロール（持続可能性に関する確認訪問）等による会場での巡視

【参考：個別基準物品の認証等の調達比率】

「木材」

※ 博覧会協会が直接契約する事業者（Tier1）からの調達結果の報告による。木材は体積、紙は数、その他は重量ベース。

例：大屋根リング

- ・国産材（約7割）について、認証材（SGEC/PEFC）は一部、その他は個別基準の別紙（認証材以外の証明方法）により基準を満たす木材であることを確認
- ・外国産材（約3割）について、全数が認証材（PEFC）であることを確認

「紙」

例：博覧会協会が発注したポスター・チラシ

- ・ほぼ全量認証紙、その他は個別基準の別紙（認証紙以外の場合の証明方法）により基準を満たす紙であることを確認

「農産物」「畜産物」「水産物」

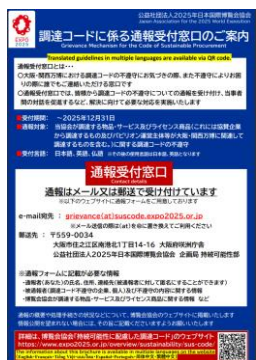
例：農産物、畜産物、水産物の生鮮食品

- ・認証等比率は、農産物 約5割、畜産物 約1割、水産物 約7割
- ・その他は各調達基準2を満たすことを確認
- ⇒ 認証品等を半年間にわたり安定的に調達する難しさ、会場内への運搬方法やスペースの制約など、イベント特有の課題も示された
- ⇒ 加工品調達が増え、その中ではアニマルウェルフェアに配慮した調達や様々な協会が認める認証品等を原料とする調達もみられた

「パーム油」

例：パーム油を原料とする揚げ油、石鹸・洗剤

- ・約9割が認証品（RSPO）、その他は調達基準2を満たすことを確認



通報受付窓口のご案内（日本語、英語、フランス語）